

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（5月）①

もも：せん孔細菌病



春型枝病斑



葉の病斑

特徴

- ◆ 春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑(スプリングキャンカー)を生じる。
- ◆ 病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 開花後、枝に形成された病斑を見つけた場合は、早急に健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。
- ◆ 風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。
- ◆ 発生を認めたら、バリダシン液剤5、スターナ水和剤等を散布する。

みかん：アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 新梢や葉裏に集団で寄生し吸汁する。被害にあった葉は小さくなったり、巻いたりする。
- ◆ 排泄物が原因となり、すす病が発生し汚れる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

なす：うどんこ病



葉の病斑(葉裏)

特徴

- ◆ 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、パンチョTF顆粒水和剤、スコア顆粒水和剤、プロパティフロアブルなどを散布する。

春は強風の日が多いので、
薬剤散布の際はドリフトに
注意しましょう！

次回の情報は5月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（5月）②

たまねぎ：べと病



べと病(二次感染株)

特徴

- ◆ 好適条件(気温15℃前後で多雨)が揃うと急速にまん延する恐れがあるため、予防散布が重要である。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期にダコニール1000、ジマンダイセン/ベンコゼブ水和剤等を散布する。
- ◆ 発生を認めたら発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分するとともに、ベトファイター顆粒水和剤、ホライズンドライフロアブル等を散布する。

たまねぎ： ネギアザミウマ(えそ条斑病)



ネギアザミウマ成虫※



えそ条斑病※

特徴

- ◆ 成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる他、えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)を媒介する。
- ◆ 高温少雨時に多発する。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適正に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

次回の情報は5月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

春は強風の日が多いので、
薬剤散布の際はドリフトに
注意しましょう！

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(5月)

水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

果樹類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
			ハスモンヨトウ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん				アブラムシ類	
いちじく			アザミウマ類		

野菜類

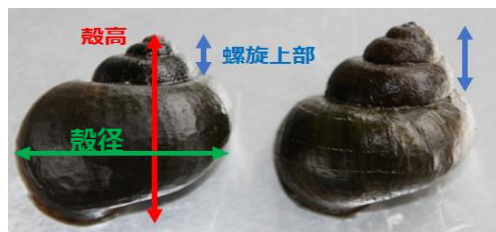
品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
			うどんこ病		
			アザミウマ類		
トマト			葉かび病 ・すすかび病		
			灰色かび病		
			コナジラミ類		
たまねぎ			べと病		
			ネギアザミウマ (えそ条斑病)		

野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			アブラムシ類		

水稲

ジャンボタニシ(スクミリングガイ)



注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆ 主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。

防除のポイント

- ◆ ピンク色の卵塊を発見した場合は、水中に掻き落とす。
 - ◆ 水深4cm以下では自由に移動できないので、田植え後の浅水管理が有効。
 - ◆ ほ場が凸凹の場合、深いところの稲が食害されるため、代かきをきちんと行い、ほ場を平らにする。
 - ◆ 用水路からの侵入を防ぐため、取水口や排水口に金網(編目5mm以下)を設置する。
 - ◆ 田植え直後にスクミノン、スクミンバイト3、ジャンボたにしくんなどを散布する。
- 注)スクミノン、ジャンボたにしくんを使用後は7日間湛水状態にし、かけ流しや落水はしない。



卵塊

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリングガイ)から稲を守りましょう！」についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

果樹

ぶどう(施設栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 孢子(分生孢子)が雨や風によって飛散し、感染する。

防除のポイント

- ◆ 換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルで土壤マルチングをする。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなどを散布する。

- ◆ 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- ◆ 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫*

特徴

- ◆ 幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆ 卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆ 被害葉は表皮だけ残して食害されるのでよく目立つ。

防除のポイント

- ◆ 幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆ 発生を確認した場合は、ディアナWDG、フェニックスフロアブル、エクシレルSEなどを散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆ 成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆ 主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月に降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ 初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆ 発生を確認した場合は、オリオン水和剤40、フェニックスフロアブル、エクシレルSEなどを散布する。

もも

シンクイムシ類



被害果

特徴

- ◆ ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。

防除のポイント

- ◆ 被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- ◆ 産卵期から幼虫加害期(5月上旬～7月下旬)にノーモルト乳剤、アディオソ乳剤、サムコルフロアブル10、ディアナWDGなどを散布する。

バラ科果樹(もも、うめ、すもも等)

クビアカツヤカミキリ



特徴

- ◆ 成虫は体長2～4cm。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあります、この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(さくら)

防除のポイント

- ◆ フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで捕殺する。
- ◆ 伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R5.3改訂版)」についてもご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2303.pdf

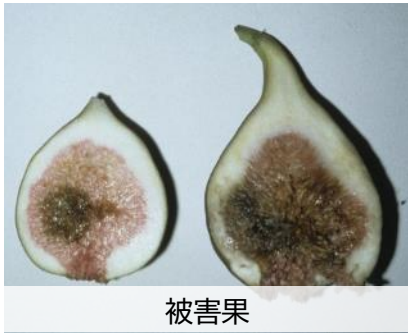


●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

いちじく

アザミウマ類



被害果

特徴

- ◆ 果実の横径が2.5～3.0cmの頃から2週間程度の間に入入する。
- ◆ 果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。

防除のポイント

- ◆ 成虫発生期(5月下～6月中旬)にスピノエース顆粒水和剤、ディアナWDGなどを散布する。
- ◆ ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。
- ◆ 乱反射型光拡散シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

野菜

なす(施設栽培)

すすかび病



葉の病斑

特徴

- ◆ 高温多湿になる施設栽培で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生を認めたら、スコア顆粒水和剤、プロポーズ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆ 咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。
- ◆ 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バルコート水和剤等を、発生を認めたら、セイビアーフロアブル20、ゲッター水和剤などを散布する。
- ◆ 開花後の花卉を取り除く。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ(葉・果実)やミカンキイロアザミウマ(葉・主に水なすの果実)による被害が大きい。
- ◆ 苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、モベントフロアブル、ダブルシューターSEなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の増殖場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

トマト・ミニトマト(施設栽培)

葉かび病、すすかび病

すすかび病被害葉※
表(左) 裏(右)※

特徴

- ◆ 多湿条件で発生しやすい。
- ◆ 近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

灰色かび病



被害葉

被害果

特徴

- ◆ 施設栽培で発生が多い。
- ◆ 20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

防除のポイント

- ◆ 開花後の花弁をとり、病原菌の侵入を防ぐ。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ゲッター水和剤等を散布する。

コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)



タバココナジラミ ※



トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、タバココナジラミは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。トマト黄化葉巻病に感染すると、生育の停止・着果不良を起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤、ベネビアODなどを散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。

野菜類・花き類

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すず病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**(なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど)、**アドマイヤー顆粒水和剤**(なす、トマト、ミニトマトなど)、**コルト顆粒水和剤**(なす、トマト、ミニトマト、花き類など)、**ウララDF**(なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど)を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。系統については病害虫防除グループのホームページにある「防除指針」等を参考にする。